

貧困国の飢餓 写す

1/29 パネル41枚、渋谷で展示会

国連機関の世界食糧計画(WFP)は、貧困国の食料事情を知ってもらおうと、国連大学(渋谷区神宮前5)でアフリカ・ザンビアに関する写真パネル展を開いている。気候変動や穀物価格の高騰が、貧しい子どもたちや農民に大きな影響を与えている現状を訴える企画だ。

(吉永亜希子)



支援で自立した家族から話を聞く知花くららさん(左から2人目、2008年4月撮影)

部のシアボンガ地区を訪れた際の写真パネル41枚。

洪水で農作物が流され途方に暮れる女性、HIVに感染した5歳の男の子、違法と知りながら森林を伐採して炭焼きをして生計を立てる男性など、住民が直面する重い課題が解説文とともに紹介されている。

農作業を手伝う知花さんや、子どもらが学校に通ってくれるようにWFPが実施中の「給食プログラム」の給食を楽しそうに食べる子どもたち、養蜂や有機農法を学んで自立しようとする農民のたくましい姿も。

学校の給食が唯一の食事である子どもも少なくないという。WFPによると、世界では食料高騰によって新たに7500万人が満足に食事を得られない状況に陥った。WFPの三谷祥子さんは「世界の飢餓状況を知ってほしい」と話している。

30日まで。入場無料。問い合わせはNPO法人国連WFP協会 ☎045・221・2515。

ザンビアはアフリカ南部の内陸国で、日本の2倍ほどの国土に人口1190万人。WFPによると、75%

の人が1日1ドル以下の暮らしを余儀なくされているという。ここ数年は度重なる洪水や干ばつに見舞われ、今年2月、同国政府が

食料や水、衛生などについて国際社会に支援を要請している。

今回、展示されているのは、2006ミス・ユニバース世界大会2位で、WFPオフィシャルサポーターを務める知花くららさんが今年4月17、26日、同国南